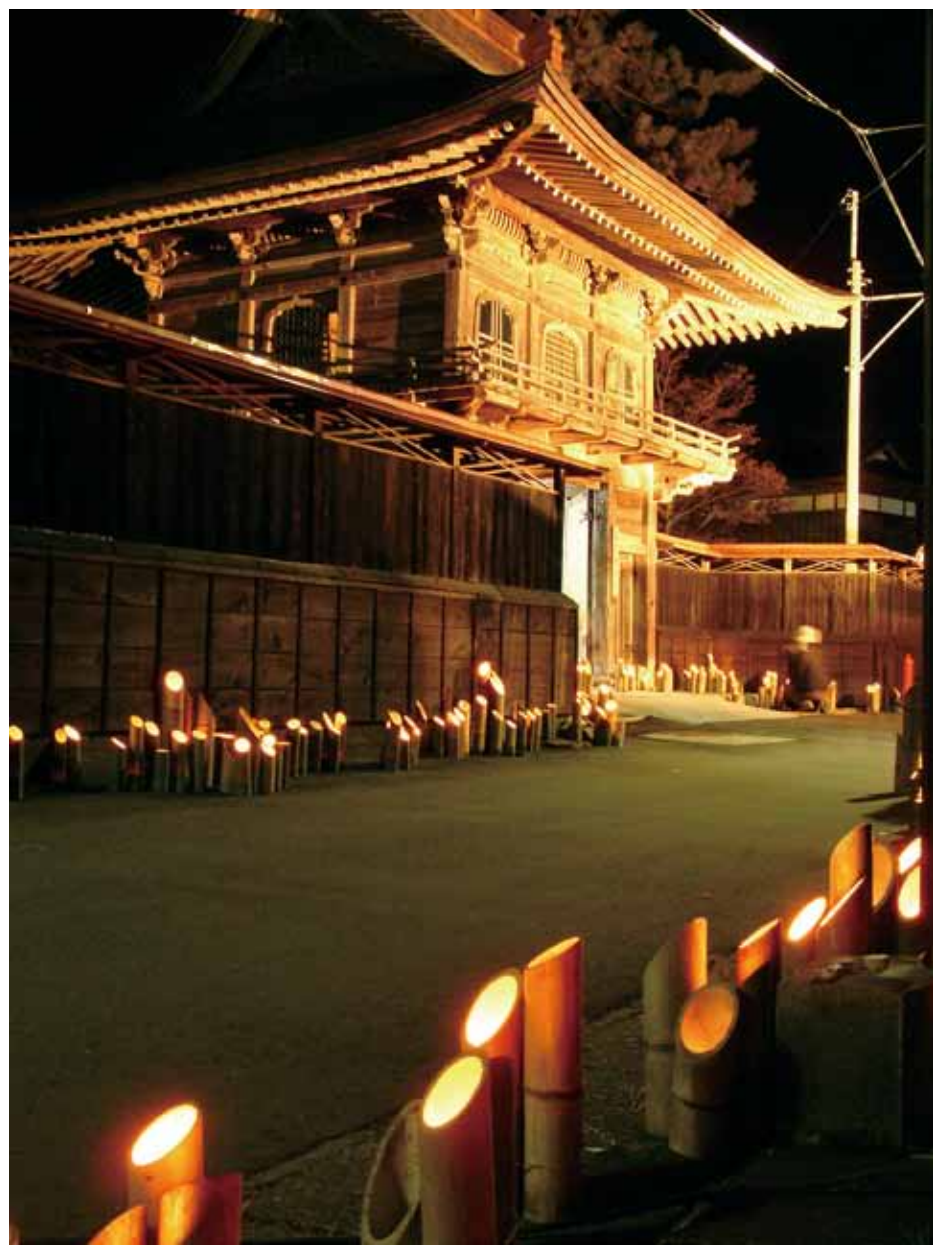


第2回伝統文化振興賞

チーム黒塀プロジェクト

新潟県村上市

Kurobei Project Team



城下町村上の寺町に続く安善小路は、かつて松尾芭蕉が歩いた通りであり、重要文化財のお寺や古民家、風情ある割烹等が歴史を感じさせる通りである。しかしこれらを取り囲む塀のほとんどはありきたりのブロック塀で、せっかくの景観が阻害されていた。

もしこの小路が昔ながらの黒塀になったら非常に素晴らしい小路になると、2002年に住民でチーム黒塀プロジェクトを結成した。「わが町は我々市民の力で良くしていく」との志で、行政に頼らず、城下町村上のあるべき姿を市民自ら形にして示すのだと活動を開始した。資金はゼロからのスタートだった。

知恵を絞って「黒塀一枚千円運動」を展開し広く市民から寄付を募り、資金を捻出した。それを基金とし、既存のブロック塀を壊さず、その上から板を打ち付け、黒ペンキを塗り、昔ながらの城下町らしい黒塀にするという奇想天外な工法で黒塀づくりが行われた。少ない経費で景観は大きく変わる。作業は大工に全て任せるのではなく、子供からお年寄りまで市民が集まり、釘打ちとペンキ塗りをを行い、市民の気持ちのこもった黒塀になる。正に民間パワーの景観づくりである。

1000名を超える市民からの寄付で、この黒塀づくりは現在420mに達した。景観づくりなどのハード事業は行政で無ければできないという意識が一般的な中、市民でも知恵と工夫で景観づくりはできるということを示した事業である。2008年にはより美しい小路にしようと植樹による緑化を進める「緑3倍計画」も開始された。松、ヒバ、もみじなど約60本の緑が植えられ、黒塀の小路は黒と緑のコントラストで非常に美しい小路になった。そして現在、小路を歩く来訪者が非常に増え、村上を代表するスポットとして地域活性化に大きく貢献している。

この黒塀の通りで始めた「宵の竹灯籠まつり」は、5000本もの竹で作った竹灯籠に灯りをともし、小路のお寺のお堂、古民家の座敷、割烹の座敷などの会場で琴や尺八、フルート、和太鼓等、古典の音色を演奏する音と灯りの幻想的なアートプロジェクトである。2日間で1万人を集める、夜の祭りとして開催されている。



Murakami City has retained many distinctive features of a *joka-machi* (towns that lie at the base of Japanese castles) as much of traditional architecture and landscape has remained over the centuries. Facing a wave of urban development, a group of local citizens mobilized to preserve and recreate the traditional landscape of the city. The Kurobei Project is a part of this local effort, in which a team of volunteers transforms the concrete walls of modern houses into the traditional *kurobei* (black wall) style by applying painted lumber over the existing outer walls.

The project—supported by funds collected from local residents who donate 1000 yen (10 dollars) per sheet of lumber—has succeeded in drastically changing the look of streets so that they now retain the characteristics of a *joka-machi*. The team's effort represents an innovative idea that revives the traditional character of the city with relatively minimal cost and time, but with great effect.



ティファニー財団賞受賞による嬉しい変化

チーム黒塀プロジェクト
事務局 吉川 真嗣

ティファニー財団賞の受賞後、ティファニー・ジャパンの元社長、マイケル・クリスト氏が村上にお越し下さいました。マスコミも集まる中、クリスト氏にご参加頂き、小路の一角で、皆で汗をかきながら黒塀づくりをしました。丁度その日は地元の七夕祭りで、山車が出て、獅子舞が行なわれます。黒塀づくり終了後、クリスト氏に浴衣を着せ下駄を履いてもらい、メンバーも全員浴衣姿で集まり、皆で杯を交わし語らい七夕祭りに繰り出しました。村上の伝統文化を堪能してもらい、我々にとってもクリスト氏とのとても楽しい思い出になりました。

権威あるティファニー財団からの評価は、地元からの評価も大きく向上させることになり、非常にありがたいことでした。今まで黒塀づくりの許可をもらえなかった家主から許可をもらえるようになり、受賞当時、340mだった黒塀は現在420mに達しました。未来へと継承していこうと我々の士気も高まり、現在は子供達が大勢参加するように変化してきています。かつては誰も通らなかった小路でしたが、今や村上の人気の観光スポットに変化し、地域活性化に大きな役割を果たすようになりました。

ティファニー財団賞の受賞は我々メンバーの士気を高めるだけでなく、地元からの活動への高い評価と理解につながっていったのです。頂いた賞を我々の誇りとして心に刻み、黒塀の取り組みを発展させていきたいと思っています。

